

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【徳力小学校】

①		今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力		(1)自分の考えを表現する力 (2)話を聞いて理解する力	
		↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】		(1)①日常的に朝の会でのスピーチや授業の終末で「今日の気づき」共有、ペアワークなど「表現する場」を増やす。【週に1回以上】②関係図・線分図・マインドマップや3語でまとめるキーワードメモ、「はしめ・なか・おわり」構造で整理するなど、思考を「見える化」する。【単元に1回】③ペア・アークグループ・全体の前で発表したり、友達の見解を聞いて付け足す活動をするなど対話的な学びの設計を行う。【毎時間】 (2)①ただ聞かせるのではなく、「何のために聞くか」をはっきりさせるなど、「聞く目的」を明確にした指導を行う。【毎時間】②最初から高度な聞き取りは、難しいので段階を踏んだ指導(レベル設定)を行う。例えば、初級：事実を聞き取る(何をした?)、中級：理由を捉える(なぜ?)、上級：考えを比較・評価するなど【単元に1回】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	1結果分析(管理職・学年主任等) 2詳細分析(学年・教科担当) 3分析共有(児童生徒の実感把握)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題	児童生徒の 学力の向上	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)	
--	--

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	1学校全体での取組 2単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 3中間評価を経ての取組 4調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	(1)1については、結果の取組が進展することになった。2については、各教科の取組が進展することになった。3については、各教科の取組が進展することになった。4については、各教科の取組が進展することになった。 (2)1については、「7月調査」となった。「聞く目的」を明確にするなど、聞き取りのレベルを段階的に設定する指導は、その結果授業内容に応じた教材研究や質問の工夫の進捗などから、効果的な指導がとれていることが確認された。一方で、児童・生徒は、授業の目的や意図を捉えて授業に臨むことができていないことが確認された。また、授業の中で何を聞き取るのか「何のために聞くのか」を児童に示した上で聞く活動を行うとともに、「事実を聞き取る」「理由を捉える」「考えを比較・評価する」といった段階的な課題を設定し、児童の実態に応じて聞く力を育成する取組を進めた。
	B	
学力向上策の 見直し	変更なし	
※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)		